令和８年度　茨城県立医療大学　海外招聘講演

韓国における作業中心の地域作業療法の実践
―日々の生活への参加と、人・地域とのつながりを支える―

日時：12 月 2 日（水）５限（16:30～18:00）　講演会（日本語）　※質疑応答含む
講師：ジ・ソギョン（Seokyeon Ji）氏
場所：茨城県立医療大学　講義棟 1 階（大講義室）
参加：参加費無料、茨城県内の方は当日参加可、駐車場無料（正面玄関にて講演会参加の旨お伝えください）
対象：茨城県内作業療法士、茨城県内作業療法学生、茨城県立医療大学教職員・学生
※県外作業療法士の方の参加、および当日の配布資料をご希望の方は、11 月 30 日(月)までにお問い合わせください。

ジ・ソギョン（Seokyeon Ji）氏は、作業療法士としてのその専門性を活かし、実務家でありながら、国の保健福祉政策にも深く関わり、韓国の小児医療・発達分野で、参加支援のトップリーダーとして、また韓国だけでなく国際的にも活躍されています。発達障害分野だけでなく、多職種協働の中で、行政で、国の政策で、作業療法士が専門性を活かしどう輝けるのか、その可能性と発展のヒントを得られるとても貴重な機会です。是非、ご参加ください。

＜ジ・ソギョン（Seokyeon Ji）氏の略歴＞
発達障害者支援、作業中心の実践、感覚統合、ポジティブ行動支援（PBS）※1、および地域社会参加の分野で 30 年以上の経験を持つ作業療法士。発達障害を持つ人々とその家族に向けた、臨床コンサルテーション、人材育成、ICF（国際生活機能分類）に基づくサービス設計、および学際的支援において豊富な経験を有する。作業療法士の専門性を活かしながら WHO（世界保健機関）Caregiver Skills Training（CST：保護者向けスキルトレーニング）マスタートレーナー※2として、発達支援のインフラともいえる国の保健福祉システムの構築に関わり、その活躍が、保健福祉部長官賞（日本でいう厚生労働大臣表彰)、および国会保健福祉委員会委員長賞など「行政（政府の担当省庁)」と「立法（国会)」の双方から認知・評価されている。
【現役職等】
SISO Counseling & Research Lab 代表 / 共同 CEO, (2009 年～)、ソウル特別市作業療法士協会会長（2021 年～)、韓国自閉症学会理事(2020 年～)、韓国地域社会作業療法学会　臨床実践ディレクター, (2024 年～)、韓国感覚統合学会スーパーバイザー (2015 年～)、ソウル大学病院（SNUH）行動発達増進センター諮問委員, (2026 年～)、
WHO Caregiver Skills Training（CST）マスタートレーナー（2018 年～)、
Quality of occupational performance（QOP）共同著者、アジア地区責任者※3

※１　ポジティブ行動支援（Positive Behavior Support：PBS）
発達障害ある子ども（あるいは大人）が示す「望ましくない行動（問題行動・挑戦的行動)」に対して、罰や叱責で抑え込むのではなく、「なぜその行動が起きるのか」という理由（機能）を分析し、環境を調整したり、代わりにコミュニケーションなどの適切な行動を教えたりすることで、本人の生活の質（QOL）を向上させる支援の枠組み。ジ氏は、韓国の学校現場に PBS を根付かせるための仕組みづくりを主導。ソウル市教育庁にて学校の先生が使える実践的なガイドラインを作成。

※２　WHO（世界保健機関）Caregiver Skills Training（CST：保護者向けスキルトレーニング）
WHO　CST は現在の世界の小児医療・発達支援の分野において「最も注目され、かつ最も期待されているグローバルプロジェクトの一つ」。WHO CST は、「専門家やお金がないと良い支援が受けられない」という世界の常識をひっくり返し、「世界中のどこに生まれても、親さえいれば、子どもが最高水準の発達支援を受けられるようにする」という、壮大な理念のもとに進められている。韓国における WHO CST は、韓国の社会制度や IT 技術に合わせて進化した「国家レベルの発達障害支援インフラ」となっている。ジ氏は、2018 年から WHO CST マスタートレーナーに就任し、韓国における「CST 責任者」ともいえる立場。

※３　Quality of occupational performance（QOP）
世界的に有名な作業遂行分析評価法の後継の評価法で、ADL、スクールワーク、社会交流領域の作業の遂行能力を測る評価法。

【問い合わせ先】茨城県立医療大学　作業療法学科　齋藤さわ子：　Tel 029(840)2220 (作業療法学科代表電話)

茨城県立医療大学　海外招聘講演

韓国における作業中心の地域作業療法の実践

―日々の生活への参加と、人・地域とのつながりを支える―

日時：12月2日（水曜日）16：30～18：00 (5限)
場所：大講義室
講師：ジ・ソギョン（Seokyeon Ji）氏
※講義は日本語で行われます。





障害を抱えながら生きる人々の
社会生活を支えるために、
医療職は専門性を活かし、
どのようなリーダーシップを発揮できるか、
韓国の発達障害支援において
最前線で活躍している
実務家と共に考える









ジ・ソギョン（Seokyeon Ji）氏略歴：
発達障害者支援、作業中心の実践、感覚統合、ポジティブ行動支援 (PBS)、および地域社会参加の分野で30年以上の経験を持つ作業療法士。
作業療法士としての実務を行う一方で、ポジティブ行動支援 (PBS) を学校教育への導入や、WHO (世界保健機関) Caregiver Skills Training (CST：保護者向けスキルトレーニング) マスタートレーナーとして、韓国社会制度に適合させIT技術を融合し「国家レベルの発達支援インフラ」の構築を主導するなど、韓国内の保健・福祉制度改革に寄与（日本でいう厚生労働大臣賞受賞）。

※WHO（世界保健機関）Caregiver Skills Training（CST：保護者向けスキルトレーニング）
WHO CSTは現在の世界の小児医療・発達支援の分野において「最も注目され、かつ最も期待されているグローバルプロジェクトの一つ」。WHO CSTは、「専門家やお金がないと良い支援が受けられない」という世界の常識をひっくり返し、「世界中のどこに生まれても、親さえいれば、子どもが最高水準の発達支援を受けられるようにする」という、壮大な理念のもとに進められている。